

立沢里山

平成20年5月5日 里山新聞 第11号

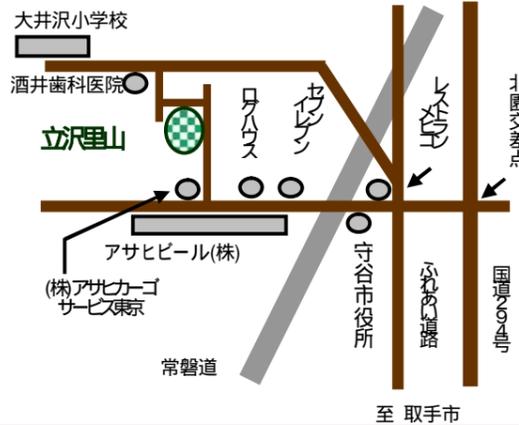
発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 222）
 立沢里山ホームページ
<http://www3.ocn.ne.jp/tatuzawa>

ボランティア募集
 あなたも一緒に楽しみましょう！

～目次～

- 1 炭焼き窯の完成と火入れ
- 2 御前山ピオトープ報告
- 3 山野草移植結果
- 4 座談会に参加「市勢要覧」
- 5 古瀬の自然と歴史を守る会視察
- 6 ウォーキング「春の大野川と斜面林を訪ねて」

【案内地図】



「立沢里山新聞」の記事をお願いします

san-seino@hb.tp1.jp

清野



竹酢液を回収するための煙突を設置します。
 煙の色を観察しながら火の調整をすること。最初は白い煙、だんだんと青白色から紫色に変化し、透明になったら火止めする。
 3～4日 で完全に止める。その間徹夜で管理しなければならず、かなり根気のいる作業です。
 炭窯は博物館の行事の他、周辺地域の里山の会など団体としての活用にも開放してくれるとのこと。
 炭は燃料としてだけでなく、炭アートや脱臭用、水質浄化用などにも活用できます。
 竹酢液は風呂に入れたり、塗布してアトピーや水虫にも効用があるとのこと。



炭出し作業

初窯の炭はGWの5月4日(日)午後炭出し作業が行われました。



最初の成果品

午前中は連休中の博物館行事として体験コースが開催されており、炭焼きの説明や竹割り作業などに大勢の親子が参加していました。
 炭焼きセミナーに参加した人や近くの里山の会の人達が指導員として活躍していました。
 竹酢液の販売や竹炭などが配布されていました。
 午後から、初釜の炭出しが行われました。成果品を手にとってみるとなかなかの出来映えに感動です。
 続いて「七郷里山の会」が次回の竹炭作成に向けて材料の窯入れを行いました。
 窯の大きさもあるので、かなりの量の竹、木材を集積する必要があります。

2 御前山ピオトープ報告

3月21日(金)連休の狭間の平日ですが、御前山ピオトープへ行って来ました。今年で3回目となります。間伐材を運搬するために軽トラックと普通車の2台で出かけました。
 現地集合で地元の人を含めて10数人の参加。午前中、間伐作業や看板設置、希少種の観察などを行いました。
 今回は天気にも恵まれ、チェーンソーも3台揃ったので作業エリアを広げ、間伐作業はかなりはかどりました。
 移植した「フタバアオイ」は上に被さった葉っぱを除去してみると元気に定着しており、昨年間伐して木漏れ日が入る環境を再生した効果が出てきたようです。



デッキで一休み

作業は無理せずほどほどに行うのが基本なので午前中で終了としましたが、斜面作業は結構汗をかきました。
 昼食の後、近くのコウモリの洞窟、完成間近のダムなどを視察しました。
 またカタクリやニリンソウの群落を観察に行ってみました。今年は少し遅いようで、ちらほらと咲いていましたが満開にはまだ早い状況でした。
 今年もどかな県北の里山を満喫できました。
 軽トラックで搬出した間伐材は立沢里山の木道補修などに活用する予定です。

1 炭焼き窯の完成と火入れ

茨城県自然博物館主催の炭焼きセミナーは最終回の3月9日(日)に火入れの儀式と完成式が行われました。

当日はセミナー参加者だけでなく、関係者や一般参加者を含めて約70人の出席者がありました。

まず、主催者である茨城県自然博物館長、茨城竹炭振興会長に続いて指導頂いた谷貝さんから、それぞれ挨拶や説明があり、セミナー開催に当たって地域や参加者への協力御礼、炭焼きの意義などについて話がありました。

続いて窯の命名式が行われ「博楽玄窯」と名づけられました。自然博物館の炭窯で皆楽しく活動することを祈念した命名だと思えます。炭窯に名前を付けるとは初めて知りましたが、確かに陶器窯ではよくありますね。火ノ神への尊敬と大切に思う心が現れていると思います。

火入れは各団体代表に続いて参加者全員が一本ずつ小薪を投入して行いました。

セミナーはたった4回の開催でしたが、指導頂いた竹炭振興会や博物館の職員、講座以外の日も協力してくれた参加者の皆さんは、その何倍も通って事前準備や継続作業に苦労頂きました。特に最終のタタキの作業は大変な重労働でしたが、その後も毎日のように通って乾燥ひび割れをタタキで修復する作業は本当にご苦労さまでした。



火入れをしても窯全体にすぐ火が回るわけではないようです。炊き口を調整し、積んだ木が崩れたら次の薪入れる。工夫した手づくりの送風機がうまく機能していました。

煙が回るまでに時間がかかるので煙突は当初はずしておき、煙が本格的に出て安定してから、



3 山野草移植結果

3月22日(土)は立沢里山の会の例会です。草刈りや樹木の枝払いの後、木道のルート変更などについて現地検討を行いました。

カタクリとニリンソウを近傍の柿木の下に移植しました。

昨年移植したニリンソウは元気に咲き始めていましたが、カタクリは日差しが強いのか少し元気ありません。今回は場所を吟味して柿木の木陰になるように移植しましたが、もう少し北向きで斜面で夏の日差しの少ない場所を探す必要があるかもしれません。



4 座談会に参加「市勢要覧」

守谷市の市勢要覧2008年版の発刊にあたり、守谷の魅力を「TX」「水と緑」「子育て環境」の3つのテーマについて市民の視点で市長と語り合う座談会が行われました。

「立沢里山の会」から新田会員が出席し、「守谷の自然の多様性や素晴らしさ、休耕田を活用した小学生の農業体験学習の実施などの里山活動の状況」について紹介しました。



また、茨城県自然博物館においては「里山環境学習サポート事業」として環境学習プログラム集「里山自然発見」や「炭焼きセミナー」などで地域の里山活動を支援しているところですが、自然博物館ニュース54号(3月25日付け)において「立沢里山の会」の活動状況が紹介されています。

5 古瀬の自然と歴史を守る会視察

4月27日(日)午後、守谷市のお隣、つくばみらい市(旧谷和原村)寺原の「古瀬の自然と歴史を守る会」を視察してきました。15年ほど前から「田んぼの学校」などに取り組んでおり、全国でも草分けとなる団体です。2年前に「立沢里山」が全国田んぼの学校企画賞を受賞して全国フォーラムで発表した際に、小管事務局長等と知り合いになっていたことから、今回ようやく訪問することとなったものです。車で10分もかからぬ近場ですが、集落に入ってから場所が解らず、集落の人に聞いたところ直ぐに説明してくれました。地元ではかなり有名なようです。

小貝川の三日月湖に面した場所に活動拠点として丸太小屋、倉庫などがあり、ちょうど現場へ行くと東大の学生が数十名でピオトープ作りを行っていました。皆泥だらけになりながら楽しそうに作業をしていました。

小管事務局長に概要説明と周辺を案内していただきました。

最初はPTAの地元有志により集落を囲む廃川敷に桜を植えることから始まったそうですが、子供の体験農業、絹の台団地との交流、古民家保全などと、徐々に活動の範囲と内容が拡大していったそうです。

地元の人達が中心に運営され重機や土地などもある程度は所有してパワーを感じました。行政にはあまり依拠しないで運営してきたのが特徴と言っていました。



ただ、地元の人達が中心となっていて、地域の幅広い理解や協力を得るには、活動内容が地域や集落に信頼されるまで、かなりの苦労があったとのことでした。

様々な面で環境の専門家である守山弘先生にアドバイスを受けたことがよかったとも言っていました。現在は、会員、サポーター、ジュニア会員など体制も確立され、ろう学校、小絹小学校、東大、葛飾区や、絹の台団地との交流活動も定着し、ほとんど毎週のように取り組みが行われています。

良く知られているのはつくばTX開通に際して取り組んだ「田んぼアート」です。現在も継続されており参加協力費一口5千円で農作業体験などが出来ます。

近くの筒戸集落にある松本邸では東京都葛飾区の皆さんが豆の手の設営作業中でした。松本邸は元農水省事務次官、茨城農業改革委員会座長でもあった故松本作衛氏の邸宅(古民家)を解放しているもので、茅葺き家屋もあり、古民家維持費として年会費が必要ですが一泊千円で宿泊も出来るとのこと。筒戸はつくばみらい市ですが、むしろ北守谷からの方が近い距離でもあります。

こんなにも身近なお隣で、先進的な活動事例を視察できて大いに参考になったと実感して帰りました。



6 ウォーキング「春の大野川と斜面林を訪ねて」

4月29日(火)昭和の日に「春の大野川と斜面林を訪ねて」としてウォーキングイベントが行われました。



当日は春らしい暖かな晴天に恵まれ、親子連れを含めて60名ほどが参加しました。

大野小学校に集合し、午前9時出発。近くのブルーベリー畑、野木崎香取神社を經由して一部で代掻きの始まった大野川添いに歩きます。

懐かしいレンゲ畑では皆で記念写真。あぜ道には菜花、ホトケノザ、ハハコグサなどが咲いていました。

昼は当初「我慢の渡し」の予定でしたが、時間調整のため「四季の里」となり、事務局から豚汁やおにぎ

り、煮付けなどが振る舞われました。

昼食後、やまゆり公園から立沢里山を通ることとなり、里山のベンチで食後の休憩。せっかくの機会ということで立沢里山の会から活動状況などを説明しました。市内でもホテルがいるとの話に皆興味を持ったようです。また、里山周辺にはいくらかもある野セリを採って帰る人もいました。

里山からはお楽しみのアサヒビール工場へまわり、蔵出しビールの試飲が最後の行程でした。

立沢里山は大野川の上流域にあたるので、今回のルートは下流から立沢里山まで溯ったことになり、里山から下流への水の流れが良く理解できました。

和気あいあいに談笑しながら、のどかな田園を散歩する楽しい散策でした。

